

研究活動報告

インドネシアの人口高齢化および人口移動に関する調査研究

厚生労働科学研究補助金事業（地球規模保健課題推進研究事業）「東アジア、ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」（研究代表者：鈴木透）の一環として、国際関係部の中川雅貴が2月5日から7日にかけてインドネシアのジャカルタに滞在し、インドネシアにおける人口高齢化および人口移動に関する資料収集ならびに共同研究者との研究打ち合わせを行った。国立インドネシア大学人口研究所（Universitas Indonesia, Lembaga Demografi）では、1990年代初頭より継続的に実施されている世帯縦断調査である *Indonesia Family Life Survey* (IFLS) の最新の実施状況に関する情報収集を行うとともに、縦断データを用いた人口移動研究の可能性および方法論的課題についての意見交換を行った。この一環として、筆者がIFLSを用いて分析を進めているインドネシアにおける世代間支援関係と若年人口移動の関連についての研究の中間発表を行い、同研究所のDiahhadi Setyonaluri 博士ならびにその研究グループに所属する研究スタッフから有益な助言を得ることができた。

昨年に引き続き訪問したインドネシア国立科学院（Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia: LIPI）では、日本での技能実習経験のあるインドネシア人帰国者を対象とした調査研究成果の概要について、プロジェクトの中心メンバーより説明を受けた。また、日本を含む諸外国との二国間協定を通じた労働者（実習生・研修生を含む）の送り出し政策に関する展望に関する意見交換を行うとともに、今後、研究交流を拡大し、共同研究についても検討を進めることを確認した。（中川雅貴 記）

国立社会保障・人口問題研究所 - 韓国保健社会研究院（KIHASA）第2回 合同セミナー：ライフコースを通じた社会保障・人口問題

2018年2月23日、本研究所と韓国保健社会研究院の共同主催で、国立社会保障・人口問題研究所 - 韓国保健社会研究院（KIHASA）第2回合同セミナーが「ライフコースを通じた社会保障・人口問題」をテーマに開催された。同セミナーは、両研究所の連携の一環として企画されたものであり、昨年同日に韓国・ソウルにて「第1回日韓社会政策定例フォーラム：低出産・高齢化の衝撃と対応」が開催されている。本年は開催地を東京に移し、本研究所における特別講演会という形にて第2回合同セミナーが開催された。両研究所所長の基調講演に続き、3つの個別セッションに分けて報告と討論が日本語・韓国語の同時通訳付きで行われた。講演・報告者と題目は以下の通りである。

オープニング・セッション

遠藤久夫「日本の医療制度改革の現状と課題」

ノ・デミュン「韓国における社会保障政策に関する最近の争点」

第1セッション：政策的アプローチ

コ・ジェイ「韓国における児童手当制度の政策状況と課題」

守泉理恵「日本における近年の少子化対策の動向」